

SHARP®

設置工事説明書

蓄電池本体

JH-WB2021

【製造元】 シャープ株式会社
【システムについての問い合わせ先】
〒639-2198 奈良県葛城市薑282番1 電話 0745 (65) 1161 (大代表)

安全な設置作業及び安全にご使用いただくために必ずお読みください。
また、詳細は最新の設置工事マニュアルに従ってください。

◆設置工事を始める前に必ずこの設置工事説明書をお読みになり正しく安全に取り付けてください。
◆蓄電池システムの電気工事を行う場合は、第一種または第二種電気工事士の資格を保有し、電気設備・機器の設置に適用される全ての法規、規格に関する知識を有する人が行ってください。
◆本書の内容および、設置に関する全ての安全上の注意を理解して設置を行ってください。
◆工事に異常を発見した場合は、速やかに工事を中断し販売会社または弊社までご連絡ください。
◆ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ずお守りください。
◆取り付け、配線に関しては必ず同梱の部材を使用してください。
また、同梱されていない部材については最新の設置工事マニュアルに指定された部材を使用してください。
◆設置工事説明書または設置工事マニュアルに記載されていない設置や加工は絶対に行わないでください。
◆本書に記載されていない設置や加工を行ったことが原因で故障が生じた場合、製品保証の対象外となります。

●誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分しています。

警告

作業を誤った場合に、取付工事業者又は使用者が死亡や重傷などに結びつく可能性があります。

禁止

注意

作業を誤った場合に、取付工事業者又は使用者が傷害又は財産の損害に結びつく可能性があるもの。

指示に従い必ず行う

警告

●電気工事は電気設備技術基準や内線規程及び労働安全衛生規則を守り、絶縁用保護具を着用、または活線作業用器具を使用し正しく安全に行うこと。火災・感電・けがのおそれがあります。

●蓄電池本体は万一の感電を防止するため及び、落電の被害を軽減するために、アース端子を使用し、必ずパワーコンディショナとは独立したアース線を設置する。また、D種(旧第3種)接地工事を行うこと。アースは長期間維持されること。火災・感電・けがを予防します。

●低圧用ゴム手袋を使用して電気配線を行う。

●足場がぬれた状態や手や身体がぬれた状態で作業はしない。
感電するおそれがあります。

●配線後、ケーブルが抜けないことを確認する。

●本製品は重量物ですので、荷積み、運搬、組立、設置工事のときには安全に十分注意してください。
(設置作業は2人以上で行うこと
また、運搬、設置工事のときには製品、建屋、設置場所に傷等が付かないように注意してください。

●蓄電池本体はボルト(4箇所)でコンクリート基礎(簡易基礎、本基礎)(屋外設置時)または屋内設置用金具(屋内設置時)に固定してください。

●作業前には電圧が印加されていないことを確認する。

●パワーコンディショナとの接続が完了しても、運転開始まではパワーコンディショナ専用ブレーカーとパワーコンディショナ本体のDCスイッチは「OFF」にしておく。
配線工事中に感電するおそれがあります。

●本製品は重量物ですので、荷積み、運搬、組立、設置工事のときには安全に十分注意してください。
(設置作業は2人以上で行うこと
また、運搬、設置工事のときには製品、建屋、設置場所に傷等が付かないように注意してください。

●蓄電池本体はボルト(4箇所)でコンクリート基礎(簡易基礎、本基礎)(屋外設置時)または屋内設置用金具(屋内設置時)に固定してください。

●この場所には設置しないでください。
●蓄電池本体は場気のあたるところには設置しない。絶縁が悪くなり、火災・感電のおそれがあります。
●蓄電池本体は崖・崖地帯に設置しない。(海岸から500m以内または潮風が直接当たる場所)
●蓄電池本体は浸水のおそれのある場所には設置しない。火災・感電のおそれがあります。
●蓄電池本体は、湿気が多く風通しが悪い場所に、設置しないでください。湿気の多い場所に設置すると絶縁が悪くなり、火災・感電のおそれがあります。
●蓄電池本体は、高温になる場所に設置しない。機器本来の性能が発揮できなくなると共に、部品が劣化して発煙・発火するおそれがあります。
●蓄電池本体は、所付付近など油煙の多いところには設置しない。電気回路や部品が劣化して焼損・発火するおそれがあります。
●蓄電池本体は、腐食性ガスや液体に触れる場所(鶏舎・畜舎・化学薬品を取り扱う所等)に設置しない。部品が劣化して発煙・焼損するおそれがあります。
●蓄電池本体は冷気が直接吹き付けるところへは置かない。電が付き、漏電・焼損するおそれがあります。
●蓄電池本体を天地逆方向、横方向、あるいは水平方向に設置しない。また傾けて設置しない。

●この設置工事説明書で規定した以外の分解・改造・筐体の穴加工及び修理はしない。安全が保証できなくなり危険です。また、筐体内部に高い電圧がかかるところがあり、感電やけがのおそれがあります。

●専用コンセントと家庭内の他のコンセントを延長ケーブルなどで接続しない。予期せぬ発火・発煙・感電・機能障害・停電のおそれがあります。

●ケーブルを破損させない。感電のおそれがあります。

●冠水品を使用しない。感電・故障の原因になります。

●蓄電池を火中に投じない。蓄電池が爆発する可能性があります。
●蓄電池を開封又は切断しない。放出した電解液が肌や眼に害を及ぼす可能性があります。
●指定された蓄電池以外を使用しない。

注意

●蓄電池本体の設置位置は、この設置工事説明書が示している寸法を守る。

●蓄電池本体、蓄電池モジュールの取付け作業は2人以上で行う。

●蓄電池は保管中でも寿命・性能が低下します。製品到着後速やかに設置してください。

●蓄電池本体に雨水が入らないようにしてください。
感電・故障の原因になります。

●蓄電池本体に塗装を行わないでください。日射により筐体内部温度が異常に上昇し故障の原因になります。

●蓄電池本体を放送局送信アンテナと家庭用受信アンテナとの間に設置しない。設置場所によっては、ラジオ、テレビジョン受信機等に受信障害を与える場合があります。
●騒音に厳しい制約を受ける場所に設置しない。
●電氣的雑音について厳しい制約を受ける場所には設置しない。
●医療用機器の近くに設置しない。医療用機器が誤動作するおそれがあります。
●アマチュア無線のアンテナが近くにあるところには設置しない。

●蓄電池本体の上に乗ったり物がさがったりしない。けがのおそれがあります。
●蓄電池本体の上に物は置かない。
●蓄電池本体の中に設置工事説明書または設置工事マニュアルに記載されていない物を入れない。故障の原因になります。

●蓄電池本体を薬品(シンナー等)で拭かない。

注意

●本紙の指示通りに本製品の設置作業をしてください。設置工事に不備があると、感電、けが、火災のおそれがあります。
●本製品の質量(右表)に耐える場所、転倒、落下のおそれがない平らな場所、また振動、衝撃の少ない場所に、本紙記載の通りに設置してください。本製品の転倒などにより、けがのおそれがあります。

質量
JH-WB2021
約120kg

この説明書は植物性インクを使用しています。
記載内容は予告なく変更する場合があります。

仕様	
JH-WB2021	
蓄電容量	公称容量(定格容量) 9.5kWh(9.3kWh)リチウムイオン電池(蓄電池モジュールJH-AB07:3倍使用)
使用条件	設置場所 屋外・屋内兼用 ※1 動作温度範囲 -10～40℃(但し、直射日光下は除く)
外観	寸法 560(W)×470(D)×685(H)mm 重量 約120kg 蓄電池モジュール/約28kg×3個 蓄電池本体/約36kg(コントロールを含む)
安全性	・過充電、過放電、過電流を検知し、自ら回路を遮断 ・蓄電池モジュール異常時には、充電電圧の停止を行い、回路を遮断 ・コントロール異常検出時は、回路を遮断
通信機能	蓄電池モジュール残量、総電圧、温度、異常アラーム信号などをRS485通信にて一体型パワーコンディショナ or 蓄電池連携型パワーコンディショナと通信

※1 屋内に設置する場合、別途屋内設置用金具JH-WBD04(2個入り/1セット)が必要です。

外形寸法図

◆蓄電池本体 (JH-WB2021)

◆蓄電池モジュール (JH-AB07) (別売品)

2-φ34 (192) (571) (560) (13) (151) (10) 450 (10) 540 (10) 560 470 (685) 680 40 5 80 100 15 定格ラベル 45 470 (45) 4-φ13 (65) 340 (65) 65 550 40 125 100 470 100 100 152 22 80 110

筐体色：グレー

◆屋内設置用金具 (JH-WBD04) (別売品) ※オプション品です。

単位：mm

端子			
	端子名	端子形状	備考
蓄電池モジュール	パワーコネクタ	コネクタ	蓄電池モジュール間の接続、コントロールと接続
	インターフェースコネクタ	コネクタ(RJ45)	蓄電池モジュール間の接続、コントロールと接続
	アース	丸端子(M5)	蓄電池モジュール固定金具(右)と接続
コントロール	パワーコネクタ	コネクタ	蓄電池モジュールと接続
	インターフェースコネクタ	コネクタ(RJ45)	蓄電池モジュールと接続
	通信コネクタ	10Pコネクタ	パワーコンディショナ or 蓄電池用コンバータと接続
	端子台	丸端子(M5)	P+、P-：パワーコンディショナ or 蓄電池用コンバータと接続
	支持金具アース	丸端子(M5)	コントロール外部(側面)と接続
	蓄電池本体用アース	丸端子(M8)	グリーンボルト(筐体内部の奥側の部材)に接続
	コントロール用アース	丸端子(M5)	蓄電池筐体とコントロール支持金具の共締め接続
	蓄電池モジュール用アース	丸端子(M5)	筐体内部の右側手前の部材に接続

ご用意頂く配線・機材				
◆配線				
推奨ケーブル	端子種類	推奨圧着ペンチ ○内は端子形状への対応	端子位置	備考
アース線 IV-5.5mm ² (緑色/黄色 または緑色)	R5.5-8 (同梱品)	MH-8(1.25/2/5.5/8)、マーベル製 YHT-2210、JST製	グリーンボルト	蓄電池本体アース用
DC配線 CV-8.0mm ² ×2心	8-5NS (同梱品) TCV-81 (同梱品)	MH-8(1.25/2/5.5/8)、マーベル製 YHT-8S、JST製	コントロール端子台 (DC+、DC-)	(一体型パワーコンディショナ or 蓄電池用コンバータ)コントロール間
◆機材				
アース棒(リード線付)、電気工事用ビニールテープ(住友3M(株) #33を推奨します)、シーリング材、ウェス等 (工具) 電動ドライバー(トルク調整範囲:0.6～2.5N・m)、同ビット(200mm)、巻尺(1m以上)、ナードライバー、ラチェットまたはメカネレンチ、トルクレンチ(トルク調整範囲:2.0N・m)、トルクドライバー、ニッパー、圧着ペンチ、ペンチ、電動ドリル、ホールソー、コードリール、脚立、軍手、低圧用ゴム手袋、保安帽(ヘルメット)、水平レベル、ワイヤーストリッパー、油性マーカー(黒)等 (測定器) デジタルテスター、アーステスター(接地抵抗測定器)等				

ケーブルの加工方法

ケーブルの加工方法 (使用する圧着ペンチは推奨品を使用してください)
※裸圧着端子を使用するケーブルの加工方法

IV5.5mm²

CV8.0mm²

1mm以下 1mm以下

1mm以下 1mm以下

圧着の際、カシメ部分から電線を1mm以上出すと端子台へのネジ締めができなくなりますので注意してください。

予め圧着をする前に絶縁キャップを電線に通しておき、圧着後は圧着端子のカシメ部分が隠れるように取付けてください。

※シースの皮むき長さは80mmまでとしてください。

設置

◆設置に関する注意事項

・使用雰囲気温度(-10～40℃)を満足する場所に設置してください。
・直射日光の当たらない場所に設置してください。
・次のような場所には設置しないでください。
・地分や腐食性ガスのある場所 ・振動、衝撃のある場所 ・ホコリの多い場所
・2人以上で作業すること。(蓄電池本体/約36kg)
・搬入時に家庭を傷つけることのないように注意してください。
・蓄電池モジュール3個を設置すると、本体重量は約120kgになります。
・蓄電池本体は凹凸がない水平な場所に設置してください。
・蓄電池本体と一体型パワーコンディショナ or 蓄電池用コンバータをつなぐ蓄電池ケーブル(通信ケーブル)は別売です。配線に20m以上の距離を必要とする場合、蓄電池システムは設置できません。

◆ご用意頂く工事関連商品

現場調達品	使用場所	サイズ	員数
プールボックス	住宅壁面		1
PF管用コネクタ	蓄電池本体(2つ)、プールボックス(2つ)	φ28	4
PF管	蓄電池本体-プールボックス間 (蓄電池本体-(一体型パワーコンディショナ or 蓄電池用コンバータ)間)	φ28	適量
ボルト	コンクリート基礎へ蓄電池本体を設置するために使用	M10 SUS	4

PF管	入線するもの	
①	電力ケーブル (蓄電池本体内部コントローラー一体型パワーコンディショナ or 蓄電池用コンバータ)	現場調達品
	蓄電池本体用アース線	現場調達品
②	蓄電池ケーブル(通信ケーブル) (蓄電池本体内部コントローラー一体型パワーコンディショナ or 蓄電池用コンバータ)	別売品

必ずご確認ください

(PF管、PF管用コネクタについて)
PF管用コネクタは防水タイプを使用してください。

(防水タイプ)
PF管は内径28mmのPFD管を使用してください(*未来工業(株)製MF-28□)。
PF管用コネクタはPFD管(内径28mm)に合う防水コネクタ(適合穴径φ34mm)を使用してください(*未来工業(株)製FPK-28F□)。
*防水性確認済。□は色を表す型番

*コネクタによっては、水の浸入を防ぐために別売りの部材が必要となる場合があります。詳しくは商品仕様をご確認ください。

◆プールボックスについて

蓄電池本体の配線は、プールボックスをご使用ください。
PF管用コネクタ接続用の穴は、ホールラーを使用してあけてください。
プールボックスを使用した経理接続施工については、SUNVISTA-NETの技術情報を確認ください。
屋外設置蓄電池システムの配管接続施工時のお願い

◆PF管用コネクタをノックアウトのないボックスに取り付ける時の穴径

呼び	ノックアウト径(単位:mm)
28	34

◆プールボックスサイズについて

図を参考にして、PF管用コネクタを接続する面の適切なサイズを決定してください。
(推奨メーカー:未来工業株式会社)

◆作業(設置)スペース(屋外、屋内)

背面 50(65)mm(注1)

250 左側面 250 右側面

蓄電池本体 (JH-WB2021) W560×D470

600 400

開口穴 2-φ34 (FPK-28F(2個))

単位:mm

＜蓄電池本体を上から見た時＞

蓄電池モジュールを上方より挿入しますので、高さ方向に1400mm以上(基礎高さが100mmの場合、蓄電池本体上方に作業空間約500mm)の空間が必要となります。

(注1)：蓄電池本体と壁面までの距離です。以下を考慮しています。
①)1本以上の取付け、取付(トレンチ)の作業性を含む
②蓄電池本体へのPF電取付けの作業性
耐震クラスAの対応施工では最小65mmとなります。

◆蓄電池本体の基礎工事

・蓄電池本体(JH-WB2021)は、本紙に記載する簡易基礎を使用することができます。
(同等性能を有する簡易基礎は設置工事マニュアルにて確認してください)
設置工事マニュアルに記載されていない簡易基礎を使う場合やコンクリートの本基礎を作製する場合は、建築士法、アクリルボルト工法、コンクリート強度、ベース筋などについて、専門の工事業者(建築士等)とご相談の上、実施してください。蓄電池本体(JH-WB2021)の重心情報等詳細については、設置工事マニュアルにてご確認ください。
・蓄電池本体は、ボルト(右図参照)でコンクリート基礎に固定されることが必要です。
蓄電池本体のボルト接続位置は4箇所(幅方向470mm、奥行き方向340mm)です(外形寸法図参照)。
・蓄電池本体の簡易基礎への取付けは、前後のスペースがなるべく均等になるように設置してください。
(本基礎を作製する場合は、左右前後のスペースが均等になるように設置してください)
・簡易基礎の設置面が水平であることを確認してください。
本基礎を作製する場合は、基礎表面が水平であることを確認してください。
・簡易基礎は、コンクリート面への設置を推奨します。
土の上に設置する場合は、必ず設置面が沈み込まなくなるまでしっかりと填土してから簡易基礎を設置してください。

材質:SUS
サイズ:M10
L20～30mm

注意

簡易基礎の設置面や本基礎が水平となっていない場合、蓄電池本体を適切に設置できなかったり、設計通りの耐震強度が得られず、蓄電池本体が転倒する可能性があります。

◆簡易基礎

耐震クラスB対応施工(1階(地表)設置の場合)

設計震度	製品名	メーカー	蓄電池本体背面への基礎のはみ出し	蓄電池本体側面への基礎のはみ出し
耐震クラスB対応施工	ベースマン NBMS00SH	(株)竹原電設	15mm	10mm

500 340 470 80 15 55 470 560 55 10 15

簡易基礎高さ：100mm
前面

600 470 65 65 20 130 65 560 20

簡易基礎高さ：120mm
前面

付属品		
◆蓄電池本体：JH-WB2021		
品名	数量	備考
電力ケーブル(組品)	1式	コントロール・各蓄電池モジュール間×1 ※電力ケーブルに付随する結束バンドは外さないでください。
通信ケーブル	計3本	a: ロングtype: コントローラ-蓄電池モジュール間×1 b: ショートtype: 蓄電池モジュール間×2
アース線	1本	蓄電池モジュール固定金具(右) - 蓄電池筐体間×1
結束バンド	1本	
裸圧着端子 (R5.5-8)	1個	蓄電池本体のアースに使用(グリーンボルトに接続)
裸圧着端子 (8-5NS)	2個	蓄電池本体内部コントロール端子台
絶縁キャップ (TCV-81 白色)	2個	蓄電池本体内部コントロール端子台
セムスネジ (M5)	3個	蓄電池モジュールへのアース線接続に使用 ※各蓄電池モジュールを固定金具(右)に取り付けるのに1個ずつ使用。
ワッシャー(M10用)	4個	コンクリート基礎と蓄電池本体を接続する時に使用
印刷物セット	1部	設置工事説明書(本紙)
	1部	蓄電池システム保証書

◆蓄電池モジュール：JH-AB07、別売品

* JH-WB2021では、蓄電池モジュール3個を使用します。
蓄電池モジュール(JH-AB07)に付属品はありません。

◆蓄電池ケーブル (JH-YB102またはJH-YB202)、別売品

品名	数量	備考
通信ケーブル (10mまたは20m)	1本	一体型パワーコンディショナ or 蓄電池用コンバータ - 蓄電池本体間接続用 スナップバンドは蓄電池本体側の接続で使用

* JH-YB102:通信ケーブル(10m)です。
* JH-YB202:通信ケーブル(20m)です。
* イラストはJH-YB102を例示しています。

蓄電池モジュール

◆蓄電池モジュールの準備

開封後、蓄電池モジュールに機能を損なうような著しい傷、破れ、欠け、変色、漏液、変形がないことを確認してください。
蓄電池モジュールは約28kg/個あります。取り扱いに注意してください。
蓄電池モジュールの製造番号(数字10桁)を控えて、お客様にお渡しする蓄電池システム保証書に転記してください(長期保証の登録申請にも使用します)。

警告

電力ケーブルを接続するコネクタ内端子部(点線部内のコネクタ)には電池電圧がかかっています。
短絡させることがないように注意してください。

製造番号ラベル

蓄電池モジュールの製造番号(数字10桁)

裏面へ
TINSJ1249ENZZ-A

設置手順

⚠ 注意

各種取付ネジ/パネルを取り外し、取り付ける場合、本紙に記載の締め付けトルク値を守り、正しく締め付けてください。締め付け過ぎの場合、ネジやワッシャを破損するおそれがあります。

⊘ 禁止

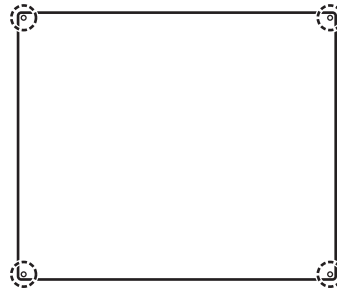
インパクトドライバーは使用しない。
インパクトドライバーでネジの締結をすると摩擦熱でネジが外れなくなります。
ネジだけの修理はできないことから、筐体の交換が必要となりますのでご注意ください。

⚠ 注意

取り外したネジは後で使用するので、必ず保管しておいてください。
ネジの取り外しの際は回転方向に注意してください。
誤って締付け方向に強いトルクをかけると、摩擦熱が生じ、ネジ部が膨張して焼き付けを起こす可能性があります。
その場合、パネルの取外し、取付けができなくなるおそれがあります。

◆パネルの取外し

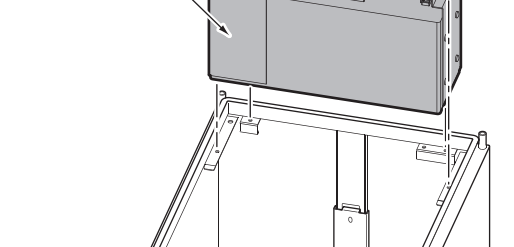
梱包箱を開封後、パネルを取り外してください(ネジ4箇所)。



◆支持金具付きコントローラの取外し

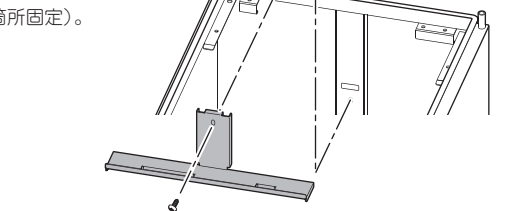
支持金具付きコントローラを取り外してください(ネジ4箇所固定)。
本紙付属品の項を参照して、同梱物を確認してください。

コントローラ支持金具



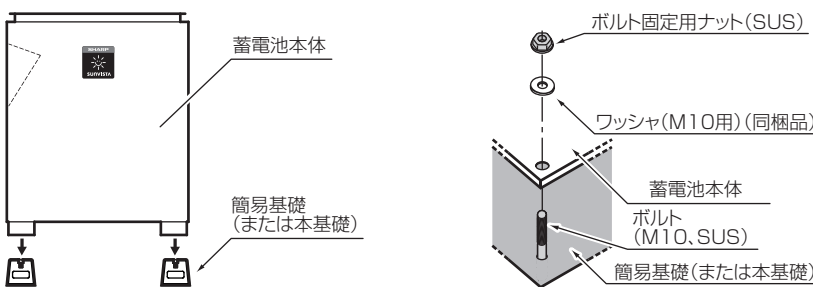
◆蓄電池モジュール固定金具(右)の取外し

蓄電池モジュール固定金具(右)を取り外してください(ネジ1箇所固定)。
※蓄電池モジュール固定金具(左)は取外しません。



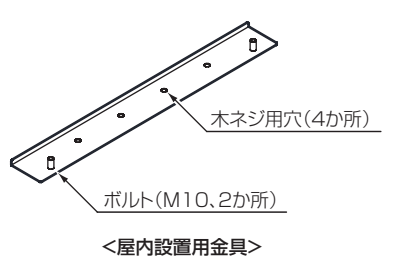
◆蓄電池本体の固定

簡易基礎(または本基礎)に蓄電池本体を固定します。
①蓄電池本体を、簡易基礎(または本基礎)のボルト4箇所に差込みます。
②図のようにボルト固定用ナット(M10、SUS、現地調達品)、ワッシャ(M10用)で4箇所を緩みがないようにしっかり固定してください。

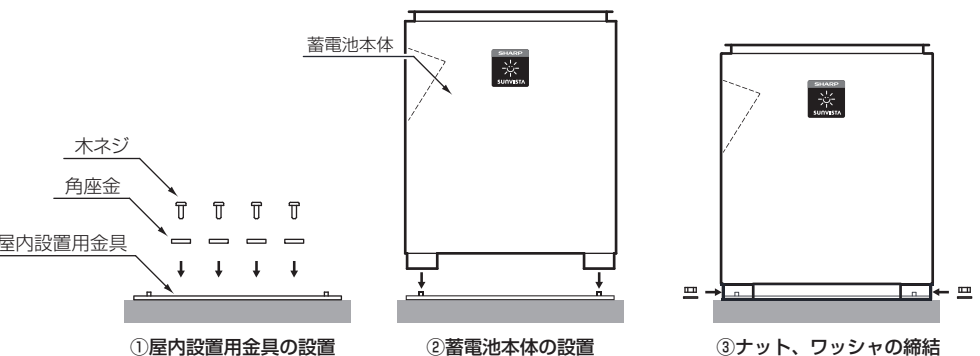


蓄電池本体を屋内に設置する場合

屋内設置用金具(JH-WBD04、別売品)が必要になります。
屋内設置用金具に同梱している設置説明書を参照ください。
①設置面(木材)に屋内設置用金具を固定してください。
同梱された木ネジ/角座金を使用し、図のように固定ください。(計8箇所)
②蓄電池本体を、屋内設置用金具のボルト4箇所に差込みます。
③横からナット、ワッシャを入れ締結します。
2.0N・m(20.4kgf・cm)のトルクで確実に締めてください。
※ナット、木ネジ/角座金は屋内設置用金具に同梱しています。

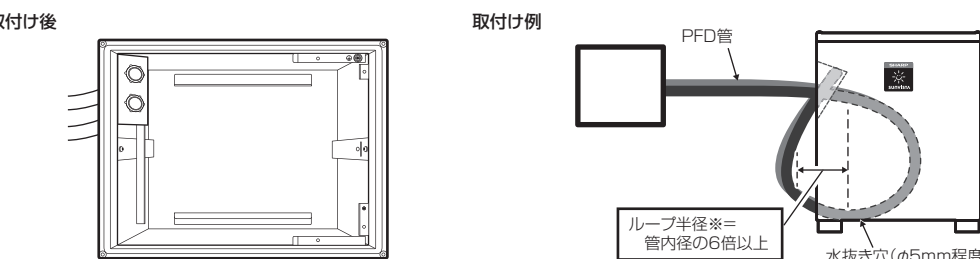


<屋内設置用金具>



◆蓄電池本体へのPF管取付け(2カ所)

配線保護のために、PFD管(内径28mm)とそれに合う防水コネクタ(適合穴径φ34mm)を使用してください。
※コネクタによっては、水の浸入を防ぐために別売りの部材が必要となる場合があります。詳しくは商品仕様をご確認ください。
※図のようにPFD管の**最も下になる位置には水抜き穴(φ5mm程度)をあけるようにしてください**。この処理は万一PFD管内に水が入ってしまった場合に、蓄電池本体への水の浸入を防止するために必要となります(屋内設置の場合は、不要です)。

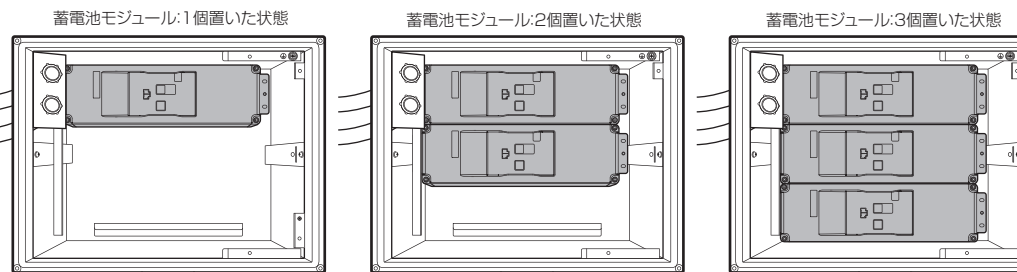
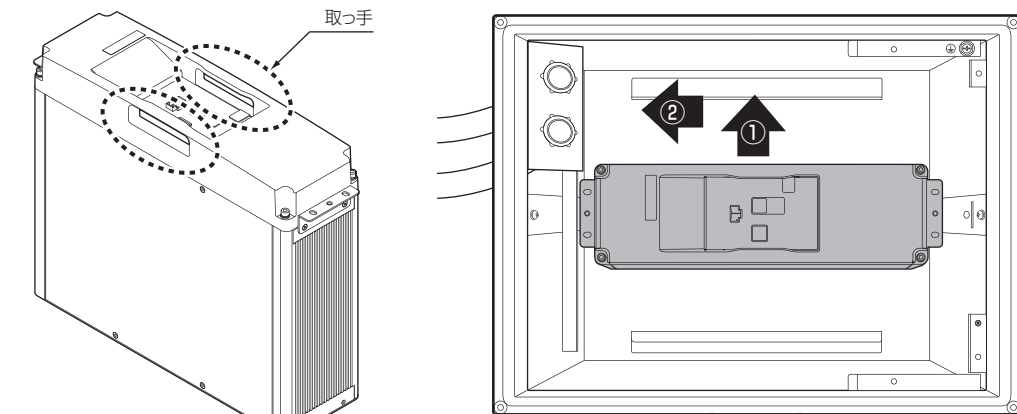


⚠ 注意

・蓄電池本体からは必ず2つの配線穴を使用して、電力線(低圧配線)と通信線(弱電流線)を分けて配線を行ってください。
電気設備技術基準を満たすために必要となります。
・PFD管のループ半径はその内側の半径が管内径の6倍以上となるようにしてください。

◆蓄電池モジュールの設置

※蓄電池モジュールは図に示した向きで、取っ手を持って、蓄電池本体内部へ設置してください。
蓄電池モジュールの筐体への挿入は、PF管接続部や蓄電池モジュール固定金具(左)がありますので、手前側右寄せで入れてください。続いて奥側に移動させた後、蓄電池モジュール固定金具(左)の下にスライドさせてください。

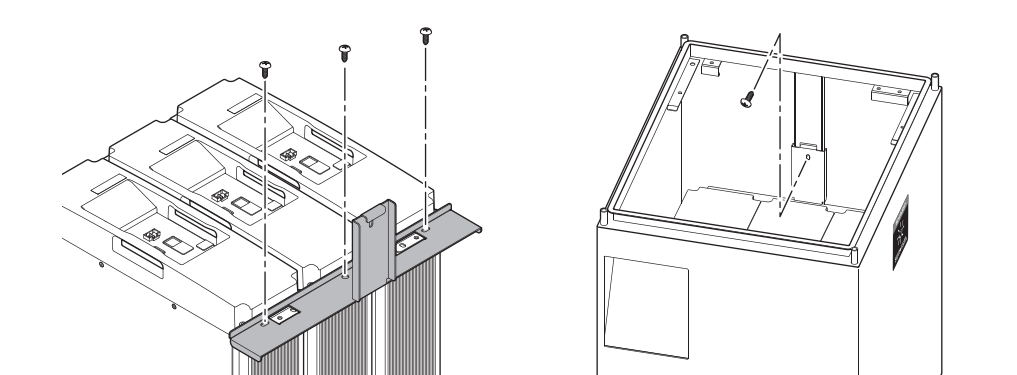


⚠ 注意

・蓄電池モジュールは図で示されている向き以外では、適切な結線ができません。
・蓄電池モジュールは約28kg/個あります。けがをしないように取り扱いに注意してください。また、設置時に蓄電池本体外観を傷つけないように注意してください。

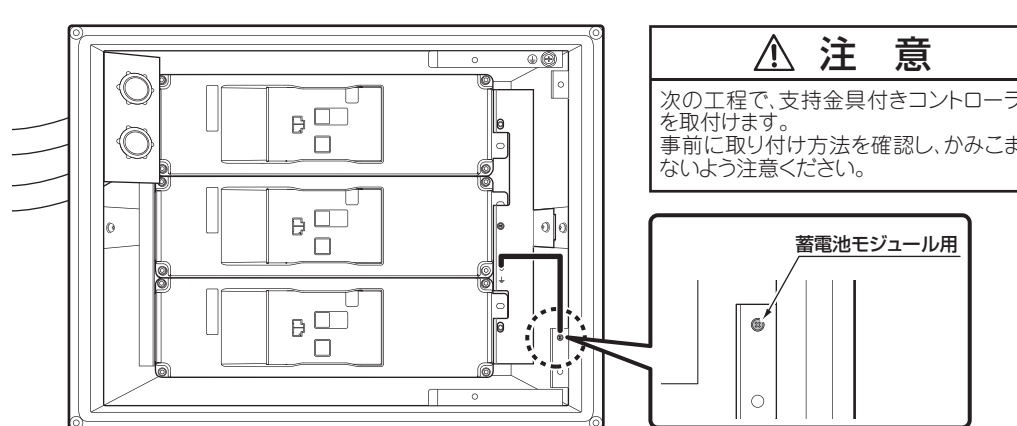
◆蓄電池モジュール固定金具(右)の取付け

蓄電池モジュール3個を設置後、蓄電池モジュール固定金具(右)を取り付けて、蓄電池モジュールを固定してください(ネジ固定:各1箇所)。ネジ(M5、計4本)は、0.8N・m(8.16kgf・cm)のトルクで確実に締め付けてください。



◆アース線の施工(蓄電池モジュール用)

図のように蓄電池モジュールのアース線(1組、同梱品)を接続します。
ネジ(M5)は0.8N・m(8.16kgf・cm)のトルクで確実に締め付けてください。



⚠ 注意

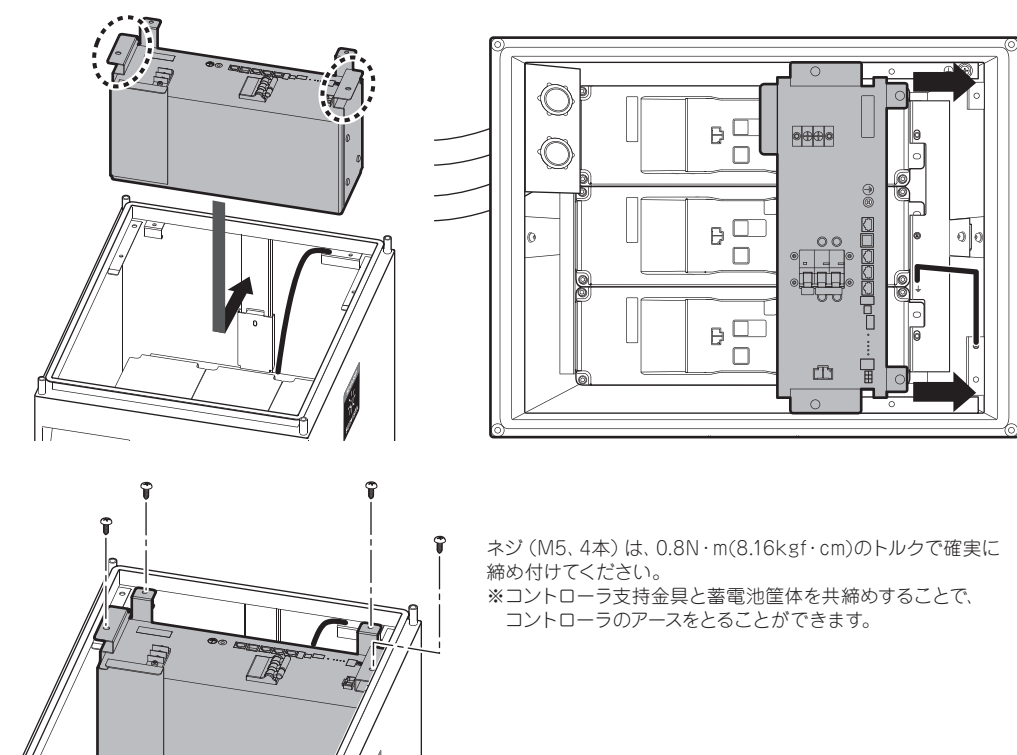
次の工程で、支持金具付きコントローラを取付けます。
事前に取付け方を確認し、かみこまないようご注意ください。

蓄電池モジュール用

◆支持金具付きコントローラの設置

支持金具付きコントローラは、図で示される位置をつかんでください。

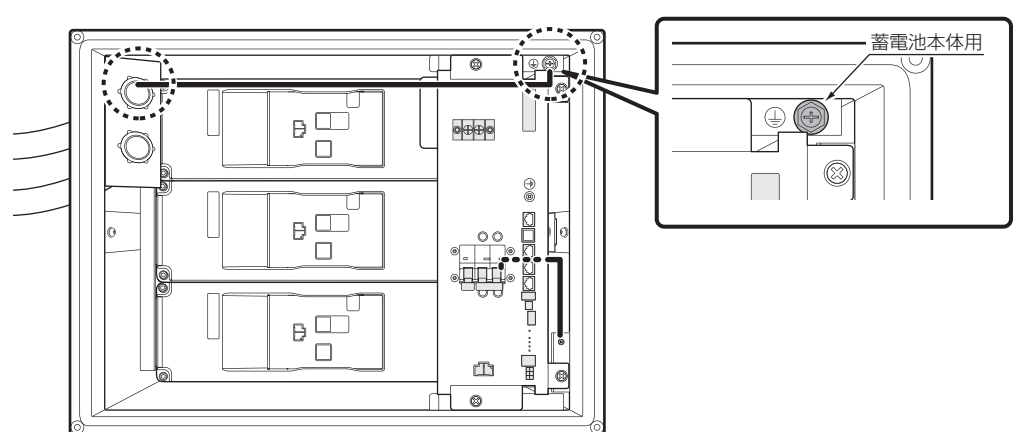
図に示した向きで蓄電池本体内部へ挿入し、支持金具(右)方向へスライドして取付けてください。



ネジ(M5、4本)は、0.8N・m(8.16kgf・cm)のトルクで確実に締め付けてください。
※コントローラ支持金具と蓄電池筐体を共締めすることで、コントローラのアースをとることができます。

◆アース線の施工(蓄電池本体用)

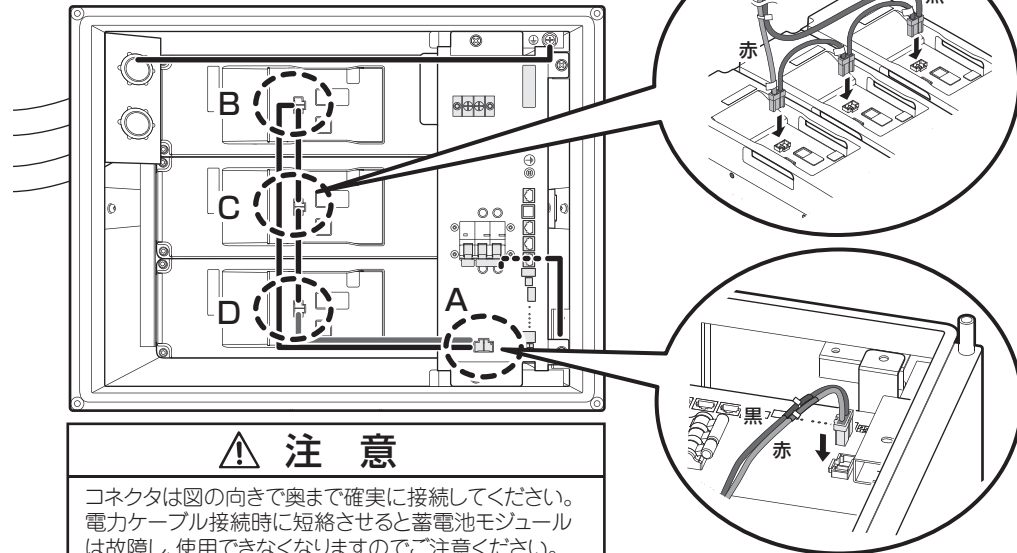
図のように蓄電池本体のアース線(現地調達品)を接続します。
ネジ(M8)は2.0N・m(20.4kgf・cm)のトルクで確実に締め付けてください。



◆電力ケーブルの施工

コントローラのブレーカーがOFFになっていることを確認してください。
電力ケーブルのコネクタを、蓄電池モジュールとコントローラに差し込んでください。

電力ケーブルの結線状態図

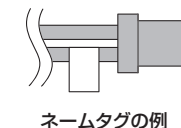


⚠ 注意

コネクタは図の向きで奥まで確実に接続してください。
電力ケーブル接続時に短絡させると蓄電池モジュールは故障し、使用できなくなりますのでご注意ください。

⚠ 警告

電力ケーブルのコネクタの根本にネームタグがあります。
以下の組合せて挿入してください。
位置A ⇄ コントローラ 位置C ⇄ 蓄電池 中央
位置B ⇄ 蓄電池 奥 位置D ⇄ 蓄電池 手前

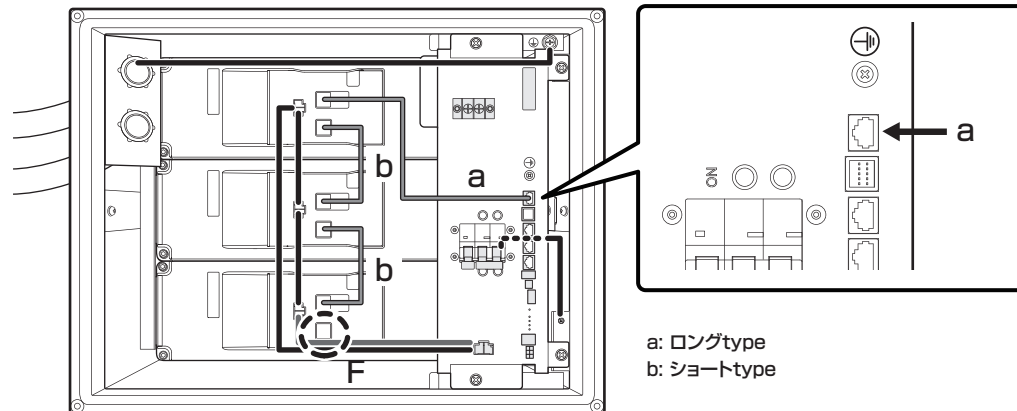


ネームタグの例

◆通信ケーブルの施工

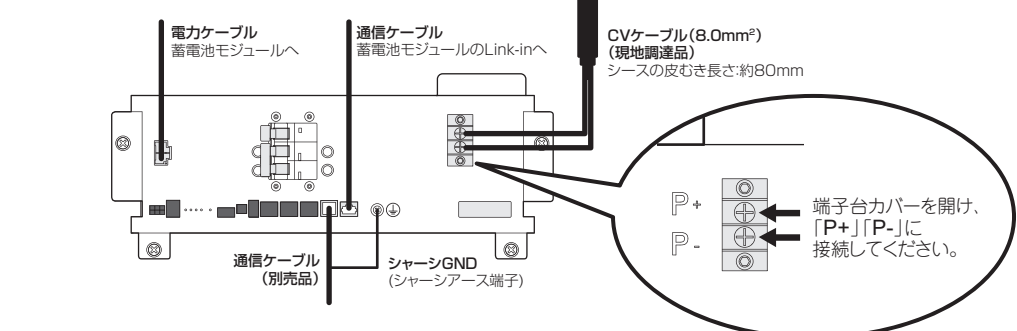
図のように通信ケーブルa,bを接続してください。正しく接続した場合、図の位置Fは空きポートとなります。
※JH-WB2021では、電池モジュールのアドレス設定は不要です。

通信ケーブルの結線状態図

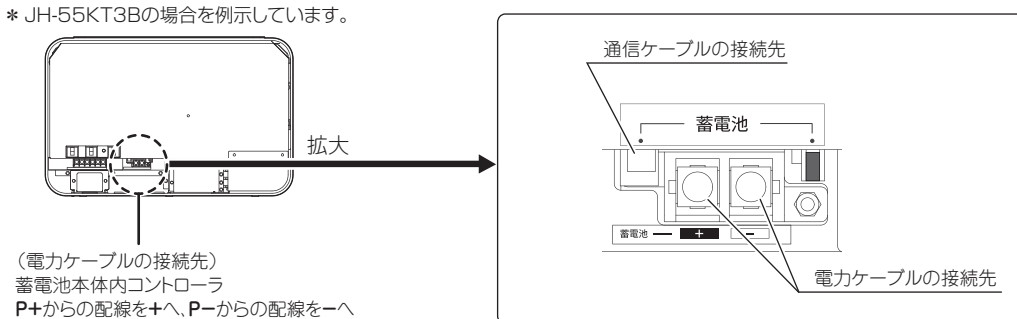


◆蓄電池本体・パワーコンディショナ間の接続(電力ケーブル、通信ケーブル)

端子台のネジは、2.5N・m(25.5kgf・cm)のトルクで確実に締め付けてください。
シャシーアースのネジは、0.8N・m(8.16kgf・cm)のトルクで確実に締め付けてください。
通信ケーブルのコネクタは誤った接続先へはかみ合いません。
かん合を確認しながら正しく接続してください。



接続箇所(パワーコンディショナ側)
※JH-55KT3Bの場合を例示しています。



配線接続終了後、端子台全面に圧着端子が密着している事、引っ張ったり曲げたりしても圧着端子が動かない事を確認してください。締付け完了後は、必ず増し締めを行ってください。

⚠ 注意

上図のコネクタ(ヘビークレー部)は空きとなります。

◆ケーブルの固定

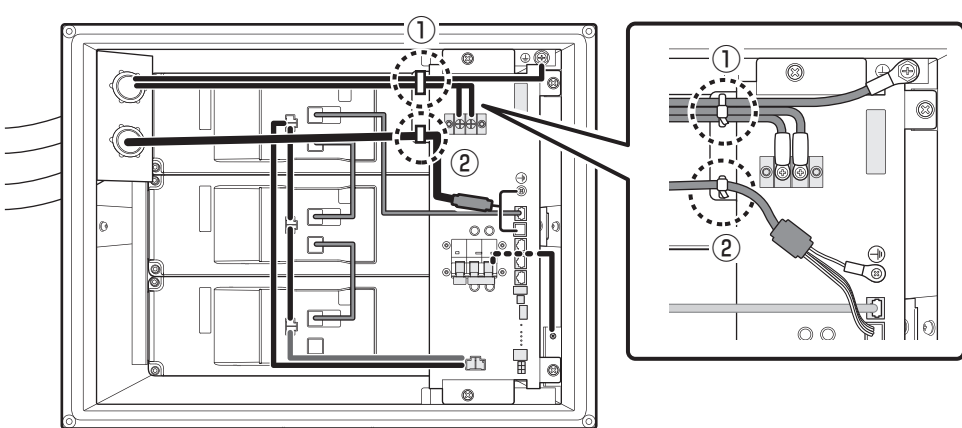
図を参考に、結束バンドによるケーブルの固定とスナップバンドの固定を行ってください。

結束バンド(1箇所)

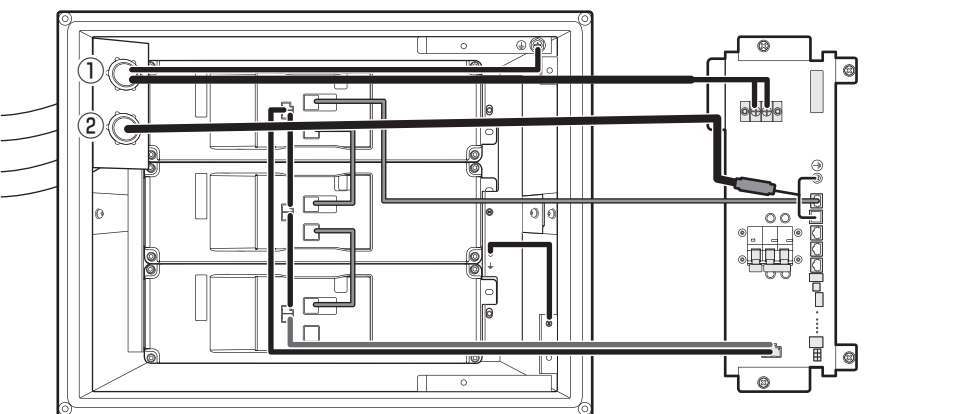
図の①の位置で、電力ケーブル(CV-8.0mm×2芯)、蓄電池本体用アース線の2本を結束固定してください。

スナップバンド(1箇所)

図の②の位置で、通信ケーブルを固定してください。



◆結線状態の確認



図のように、PF管①に
・電力ケーブル(CV-8.0mm×2芯)
・蓄電池本体用アース線

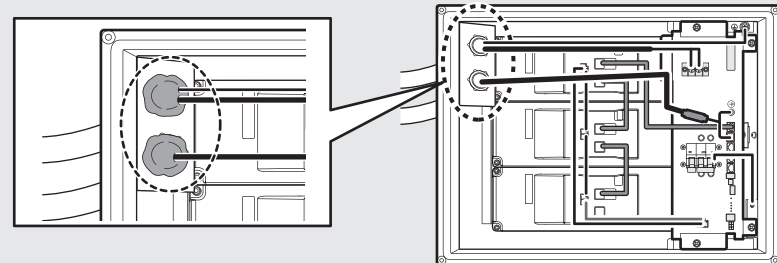
PF管②に
・通信ケーブル

を入れてください。
ノイズによる機器の誤動作防止や電気設備技術基準を満たすために必要になります。

配線接続終了後、端子台全面に圧着端子が密着している事、引っ張ったり曲げたりしても圧着端子が動かない事を確認してください。締付け完了後は、必ず増し締めを行ってください。

◆配線部のパテ埋め

配線接続終了後、蓄電池本体への湿気の侵入を防ぐために、PF管用コネクタと配線の隙間を防水パテ等で埋めて、蓄電池本体を密閉してください。



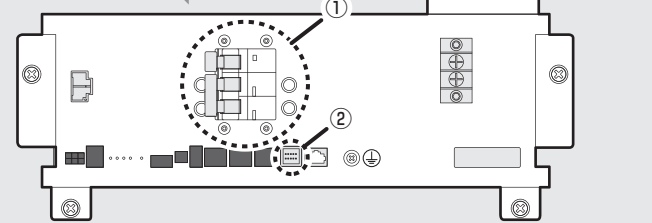
必ずご確認ください

◆設置工事後、連系開始日まで1週間以上期間がある場合の処置(設置工事が完了せずに一旦作業を終了する場合を含む)

蓄電池システムを停止するために、蓄電池本体で以下の作業を行ってください。

- ①蓄電池コントローラのブレーカーをOFFにする
- ②「PCS2」と記されたコネクタを外す

← OFFへ



⚠ 注意

上記作業を行わずに長時間放置した場合、蓄電池モジュールが過放電になり動作しなくなります(復旧できません)。

◆PF管接続部の防水処理について

- ①PF管用コネクタと筐体との接続部にワッキングが挿入されていることを確認してください。
- ②筐体内側(PF管用コネクタと配線の隙間)の防水処理(防水パテ等)がされているか、確認してください。

※◆蓄電池本体へのPF管取付け、◆配線部のパテ埋めを参照して、防水処理がされていることを確認してください。

⚠ 注意

パネルを開める前に…

- ・蓄電池本体内部に、腐食、汚れ、水の侵入がないことを確認してください。
- ・誤配線、電線、端子の腐食、変形、損傷がないことを確認してください。
- ・端子台接続端子のネジに緩みがないことを確認してください。指定トルクで締められているかを確認してください。
- ・各ケーブルの被覆が端子台にかみ込んでいないことを確認してください。
- ・ケーブルがパネルを開める際にかみ込んでいないことを確認してください。
- ・電線をそのまま端子台へ固定していないことを確認してください。(圧着端子の使用は必須です)

◆パネルの取付け

4箇所のネジでパネルを取り付けてください。
ネジは、1.2N・m(12.2kgf・cm)のトルクで確実に締め付けてください。
締め付け過ぎの場合は、ネジを破損するおそれがあります。

